

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	<p>新宿区版 GIGA スクール構想の実現に向けて、児童がタブレット端末を活用する授業を毎日設け、児童に活用させる授業を計画する。週案にタブレット端末を活用する時間を明記するなど、学校としてタブレット端末活用の推進を徹底し、機器を効果的に活用した授業作りを行う。</p> <p>児童の論理的思考力を育むために身に付けるべき力などを整理し、各学年で何を指導するのか明らかにする。「愛日プログラミングタイム」を各学年に設け、プログラミング的思考を高めるための取り組みを位置付ける。また、プログラミング的思考を高めると共に、教科目標の達成を両立させる。</p>	中間評価	<p>児童がタブレット端末を活用する授業を毎日設定することができている。全教員がタブレット端末を活用した授業を公開したり、様々な取組を行う中で、効果的だった指導法を共有したりしてきた。また、全学年、専科が、年間指導計画の中でタブレット端末をどのように活用するか位置付け、タブレット端末を活用した授業づくりを学校体制で進めることができた。</p> <p>また、区の ICT 支援員等と協力し、先行実践などを基にして、各学年に応じたプログラミング的思考を高めるための学習を行ってきた。</p>	最終評価
		<p>愛日スタンダード等を基にして、学校として同じ方向を向いた学習指導・生活指導の徹底と hyper-QU の活用等による児童理解をすすめる。自己決定の場の確保、自己肯定感をもたせる場作りなどの人間関係づくりの視点で学習環境を整えていく。</p> <p>また、全教室ユニバーサルデザインを意識した教室掲示等、統一した環境作りを行う。</p> <p>上記の2点から、児童がいつでも安心して学べる環境を学校として整える。</p>		<p>全教職員が愛日スタンダードを基にして、同じ方向を向いて全児童の指導にあたった。指導の方向を合わせるためのチェックリストを作成したことで、組織として指導を進めることができている。</p> <p>hyper-QU の結果を学級担任だけでなく、様々な教職員が担任と一緒に結果を読み取ったことで、児童理解の深まり、児童への対応の仕方の共有ができた。</p> <p>全教室ユニバーサルデザインを意識した教室掲示を年度当初に全教職員で共通理解し、環境作りを行った。</p>	
環境作り					

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語	<p>学 ひらがなや漢字の書き順や字形の習熟や、拗音や促音、「はをへ」などの使い分けが、なかなか定着しない児童がいる。</p> <p>学 集中して最後までしっかり話を聞くことができない児童が多い。</p>	<p>学 書き順や字形を正しく書くように、練習の際には、机間指導などで教師が確認し、その都度指導をしていく必要がある。</p> <p>学 話す時の声の大きさや姿勢、話を聞く時の態度や質問のタイミングに課題がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎日の授業中での漢字ドリルの添削や宿題の漢字練習帳の添削などの機会を増やし、正しい文字の書き方を繰り返し指導していく。 デジタルドリルを授業での演習問題や毎日の宿題として活用する。 帰りの会で日直のスピーチを実施し、質問や感想を話す機会を設けることで、話し方や話の聞き方を身に付けさせる。 		
	算数	<p>学 たし算・ひき算の仕組みは、わかっているが答えを出すまでに時間がかかる児童もいる。また、文章問題の読み取りが苦手な児童が多い。</p>	<p>学 繰り上がり、繰り下がり計算になり、理解力や計算速度に関し、児童の能力差が出てきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度に合わせた問題をタブレット端末を活用し、練習問題の難易度や、問題量など、児童の定着度に応じて個別対応ができるようにする。 		
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	<p>学 平仮名や片仮名に加えて、漢字の習得も反復練習を取り入れたことで定着してきているが、正しい書き順を意識したり、字形を整えて書いたりする力が十分身に付いていない状況が見られる。文章表記では、まだ拗音や促音、助詞などの間違いも見られ、引き続き正しい文の書き方の指導が必要である。</p> <p>学 話を聞く際、気持ちがそわそわしたり、手遊びをしてしまったりする姿が多く見られる。集中して話を聞ける時間がまだ十分でないため、大事なことを落とすしてしまう。</p> <p>学 読書が好む児童が多く、様々なジャンルの本に興味をもって読んでいる。また、絵本だけでなく、伝記や物語を読み始める等、関心・意欲が高い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 家庭での反復練習の際も、正しい書き順で字形を整えることを意識して書くように指導する必要がある。 文章を書く際には、拗音や促音、助詞の使い方など意識していく必要がある。 大事なことを落とさずに聞いたり、話したりするためにはどんなことが必要なのか考え、定着させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字練習を毎日行ったり、週に1回のミニテストで定着を確認したりする。また、タブレット端末での漢字練習も積極的に取り入れ、繰り返し練習する時間を設ける。 身近な出来事を題材に選び、日記を書く活動を取り入れる。まずは書くという活動に抵抗をなくすためにも、日記には出来事と自分の気持ちを取り入れるということを重点的に指導する。拗音や促音、助詞などの間違いを机間指導などで教師が確認し、その都度指導をしていく。日記以外にも100字程度の短文作りの機会を増やし、正しい文の書き方に気が付けるよう指導していく。 話を聞く際、常に話者に視線を向ける、手は動かさない、話している途中で口を挟まないなどの指導を徹底していく。また、全校朝会での校長講話や朝のスピーチ等の機会を活かして、大事なことを落とさないように話の要点をメモしながら聞く活動を継続的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末での新出漢字の練習に児童が主体的に取り組むようになってきた。今後も正しい書き順や字形を整えて書くことを指導していく。 拗音や促音、助詞などの間違いを机間指導などで教師が確認し、その都度指導をしてきたが、まだ十分に定着はしていない。今後も文章を書く機会を設け指導していく。 話を聞く際のきまりを指導してきたことで、常に話者に視線を向けたり、相手の話を最後まで聞いたりすることができる児童が増えてきた。しかし、大事なことを落とさずに話を聞くことに関しては課題があるため、今後も継続して指導していく。 	

	算数	<p>【学】 計算処理については、繰り返し上がりや繰り返し下がりなどの理解と処理は身に付いてきている。しかし、文章題から題意を読み取り、図に表すような思考力については、個人差があるため、個々の理解度に合わせて指導を行いながら、文章題に取り組ませるようにする必要がある。</p> <p>【学】 繰り返し上がり、繰り返し下がりの計算になり、理解力や計算速度に関し、児童の習熟度に差が出てきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を把握し、既習事項を活かして解決する場面において、自らの考えを表現する際に図や表などを使用して説明できるように指導する必要がある。 全員共通の課題に取り組むだけでなく、自らの学習状況を把握し、すすんで学習に取り組む力を少しずつ伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算処理の問題に多く取り混ぜる反復練習だけでなく、児童が思考し、自分の考えを表現するような場を授業の中に設定する。 授業で学習内容の定着を確認するための問題に取り組む際は、タブレット端末を活用し、練習問題の難易度や、問題量など、児童の定着度に応じて個別対応ができるようにする。様々な問題に慣れさせるように教材を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを表現する場面を授業の中で多く作ってきたことで、児童が思考し、表現することに慣れてきている。今後も継続して指導し、さらに効果が高まるようにしていく。 繰り返し上がり、繰り返し下がりの処理、かけ算など、児童の習熟度に差が出てくる場面では効果的にタブレット端末を活用したことで、個別最適化された学習を進めることができた。
3	国語	<p>【調】 領域「書くこと」の正答率は、他の領域と比べると低い結果となっていた。</p> <p>【学】 文章を書くことに苦手意識があり、時間も長く必要とする児童が多い。読み手を意識した文章を書く能力がまだ十分に身に付いていない状況である。</p> <p>ワークシート・ノートにまとめた内容、学習感想などを見ても、文章の構成を考え、自分の伝えたいことを順序立てて書いたりする力がまだ十分ではない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動を計画的に設定し、書くことへの苦手意識をなくしていく。日記なども取り入れ、自分の思いや考えをまとめる指導も行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く活動を週に1回程度宿題として出し、習慣化していくようにする。 自分の気持ちを入れて書くことを指導することで、出来事だけの羅列にならないようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 週に1回程度、宿題として書く活動に取り組んだことによって、書くことに慣れたり、楽しんで取り組んだりできる児童が増えた。 自分の考えや思いを書くことについては、今後も継続して指導していく。 メモの取り方を指導したり、話の要点をまとめる活動に取り組んだりすることによって、内容を理解して聞いたり、必要なことを落とさずに聞いたりできる児童を育てていく。
	算数	<p>【調】 新宿区学力定着度調査では、すべての領域で目標値を上回っていたが、文章問題には課題がある。</p> <p>【学】 計算処理については、正しく計算することよりも、速く計算することを目標としている児童が多く、間違えずに計算できる児童は多くない。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本が定着している児童も多いが、問題を解く際にケアレスミスをする児童が多い。 文章題で、自分の考えを式に表し、それを分かりやすく説明することに課題がある。 文章問題や応用問題になると理解に時間がかかり、個別指導を必要とする児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「正しく」を意識して、計算問題に取り組ませるようにする。「量」だけでなく、「質」を意識させる。 式を立てる際に、言葉の式で考えることで、自分が行っている計算や具体物操作が文章題の中でどのような意味をもつか考えながら、問題に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や朝学習で計算問題を解くときには、計算の過程が明確になるように、ノートに途中式を書くようにする。 デジタルドリルを使い宿題で反復練習を行うことで定着を図る。 授業で文章問題を解く時には、問題文にラインを引き、それを基にして言葉の式を立て、計算式を立てることを指導し、積み重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算の過程が明確になるように、途中式を書くよう指導したが、定着していない。今後も継続して指導していく。 あまりのあるわり算、かけ算の筆算など、タブレット端末も利用して繰り返し練習し、定着を図った。 問題文から読み取ったことを図や言葉、式等に表し、自分の考えを分かりやすくノートにまとめる活動を通して、説明する力を伸ばす。
4	国語	<p>【調】 前年度新宿区学力定着度調査では、「書くこと」領域が他の領域より目標値を下回っていた。</p> <p>【学】 読書を好む傾向があり、多様なジャンルを読んでいる。基本的な知識は身に付いているが、物語文の登場人物の心情を考えたり、自分の考えを言ったり書いたりするのが苦手である。文章を書くことに苦手意識があり、時間も長く必要とする児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書く内容の中心を明確にすることや、内容のまとまりで段落をつくることなどを意識させて文章を構成することを指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で書くことを意識的に取り入れるようにする。また、段落の「はじめ」「中」「終わり」を色分けして指導し、内容のまとまりが視覚的にわかるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童は、内容のまとまりごとに段落を作ること意識し、文章を構成するようになった。伝えたいことを分かりやすく文章にまとめられる児童が増えてきた。 本文中に線を引かせながら読むことを指導し、文学的な文章を読むことについては、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉えることができるようにする。また、説明的な文章では、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるようにする。 漢字辞典の使い方を指導し、漢字の読み方、成り立ち、意味、その漢字を使った語句などを調べて語彙力を高めていく。
	算数	<p>【調】 前年度新宿区学力定着度調査では、すべての領域で目標値を上回っていた。</p> <p>【学】 基本的な知識は身に付いているが、テストの際に、問題の読み間違えや単位の書き忘れなどが目立つ。また、思考力・判断力・表現力については十分に身に付いているとはいえない。きちんと折れ線グラフや図形を描いたりすることができない。問題の読み間違えや単位の書き忘れが多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作図に取り組む回数や時間を意図的に増やし、経験を積ませる。 大事などころに線を引いたり、印を付けたり、丁寧な字を書いたりすることでケアレスミスが減らせることを実感できるように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿題でデジタルドリルなどに繰り返し取り組み、知識・技能の習熟を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習ノートについては、教科書の「マイノート」を参考にし、式や答えだけでなく導き出された理由や方法などを図や言葉などを入れながらまとめるよう指導する。 習熟度別算数少数指導では、習熟度に応じて課題を開発し、児童の習熟度に応じた課題の精選やワークシートの開発、具体物を使った支援等を行い学力の定着を図る。

5	国語	<p>調 前年度の新宿区学力定着度調査では「書くこと」の目標が低く、無記入の児童も見られた。</p> <p>学 熟語の知識や、言葉の知識は身に付いているが、登場人物の心情や人物像を読み取り、感想をもつときにどう書き始めたら良いか分からず書く力が十分に身に付いているとは言えない。また、相手に伝わるように話そう、書こうという意識も十分とはいえない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書くことへの抵抗感があり、文章の構成を考え、読み手を意識しながら自分の考えを表す力がまだ十分ではない。 (話すこと、聞くことの課題を加筆) 自分の考えが伝わるように話すためには、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫し話すことを指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1週間に1度、日記を書く活動を取り入れ、多様な形態で書く経験をさせることで、書くことへの抵抗感をなくし、書くことを楽しいと感じられるようにしていく。 読書を通して、文章構成に触れたり語彙を増やしたりし、積極的に活用することができるようにしていく。 文章を書く際に既習の漢字を正しく使えるように、デジタルドリルを活用して、筆順を意識して丁寧に書字できるよう指導していく。 日々の漢字ノートの宿題でも、既習の漢字はもちろん、新しく学習した漢字も正しく活用できるよう指導していく。 (話すこと、聞くことの課題に対する改善策を加筆) 話す際には、相手や目的に合わせた資料を活用したり、視線や指示の仕方について意識したりすることを通して、表現の工夫をするように指導をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々なテーマで書く経験を積んだことで、書くことへの抵抗感は徐々になくなってきたように思える。少しずつ文量も増やしていきながら書くことができるよう指導していく。 定期的に読書を行う時間を設け、様々な文章に触れ、語彙を増やすことができている。引き続き、定期的に読書の機会を設けるようにしていく。 デジタルドリルの活用によって筆順と字形を意識して書字するようになってきている。引き続き丁寧に書字できるよう指導していく。 日々の漢字ノートの宿題では、丁寧に取り組む児童が増えてきている。新出漢字の学習の際には、多くの熟語にふれ、語彙力も同時に高めていけるよう指導していく。 (話すこと、聞くことの取組) 自分の伝えたい意図に合わせて資料を用意することにより、意見に説得力をもたせることができるようになった。話したり聞いたりする際に、視線を意識することや友達の見解を支持する場合の約束については、引き続き指導していく。
	算数	<p>調 前年度の新宿区学力定着度調査では全ての領域で目標値を上回り、特に「思考・判断・表現」の観点項目において目標値を大きく上回っていた。</p> <p>学 基本的な知識は身に付いているが、単位の間違えや計算ミスが目立つ。既習事項を使って、問題解決に取り組む思考力には課題がある児童が多く、式が立ち、答えが出れば十分と考えている児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 問題を速く解くのではなく正確に解く意識がまだ十分ではない。 知識が先行しており、公式がなぜその式になるのか考えたり、説明したりする力が十分ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題文をよく読んでから問題に取り組んだり、見直しを行ったりすることで、正確に問題に取り組む意識をもたせるよう指導を行っていく。 デジタルドリルに繰り返し取り組むことで、知識・技能の習熟も図っていく。 公式を覚えたり、立式できたりするだけではなく、なぜその公式になるのか、なぜその式になるのかを様々な視点から考え、多角的な思考ができるよう指導していく。また説明の際にはICT機器を活用して、分かりやすく説明できる力も育てていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題文を正確に読み取ることの重要性、見直しの価値を伝えながら、児童が必要感を感じながら問題文を正確に読み取ったり、見直しをしたりできるようにしていく。 毎日デジタルドリルに取り組むことで、知識・技能と共に、学習習慣の定着を図ることができた。引き続き取り組ませていく。 自分のノートをプロジェクターに写し、自分の考えを説明する経験を数多く積ませることで、式の意味を考え、分かりやすく説明できる児童が増えてきている。引き続き、ICT機器を活用し、自分の考えを伝える場を用意していく。
6	国語	<p>調前年度の新宿区学力定着度調査では、どの領域も目標値を大きく上回ったが、「文章を書くこと」においては、他の領域に比べると正答率が低い数値にあり、無回答も20パーセントを占めていた。</p> <p>学新出漢字の練習に意欲的に取り組み、丁寧に書くことができている。一方、既習の漢字や言葉、熟語を文章の中で使おうとする意識が少ない児童が見られる。話すことについて、発表するための原稿を考えることはできるが、大勢の前で発表する場面に苦手意識がある児童が見られる状況である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 書くことへの抵抗がある児童はいるが、自分でテーマを設定し、出来事について詳しく内容を伝えることができている。 小漢字テストから、新出漢字の習得は出来ているが、既習漢字の定着に課題のある児童が多い。既習の漢字は意識して書くように声掛けをしていく必要がある。 発表する機会を増やしていき、大勢の前で発表する場面に少しずつ慣れていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の学力調査の結果から、書くことについては指定された長さで書くことや、段落構成を理解して書くこと、自分の意見を明確にして書くことの指導を毎日の日記(作文)や授業を通して指導していく。 漢字の定着には、まだ個人差があるため、授業だけでなく家庭学習も継続して課題を出していく。 簡単なテーマで、原稿を考え、全員が短時間で発表できる場面を設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること意識して「書くこと」の習慣化を図る。 新出漢字に関する漢字小テストでは、単純な書き取りミスをする児童が多かった。正確さに意識を向かせる声掛けを行い、ミスをなくす意識を高める。また、朝学習等で既習漢字の定着を図るため、タブレット端末を活用した漢字の書き取り練習を繰り返す。
	算数	<p>調前年度の新宿区学力定着度調査では、すべての領域で目標値を上回っていた。</p> <p>学基本的な計算力は身に付いている。しかし、丁寧さに欠け、正確さが不安定である。作図、分数や少数の計算に苦手な傾向が見られる。思考力の面では、問題解決に意欲が見られる。説明する力、自分の考えを分かりやすく表現する力が不足している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 練習問題などを通して、基礎基本の定着をさらに図っていく必要がある。 丁寧に作図をすることや、位を揃えて計算することに課題がある。 自分の考えを伝え合うための活動を増やしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も丁寧に作図に取り組ませたり、自分の考えを言葉で表現したりする活動をさらに増やしていく。 早く解く力を身に付けることは大切であることを伝え、1問1問丁寧に解くことを指導していく。 ペア学習や少数グループでの伝え合いなどの場を設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習問題などを通して既習事項の復習をし、学習内容の定着を図る必要がある。また、引き続き自分の考えをノートに書いたり、発表したりする活動をさらに増やしたりしていくことで、理解を深められるようにする。 デジタルドリルなどタブレット端末を活用して習熟状況に合わせた問題に取り組むことで、学習の定着を図る。個別指導を充実させていく。

音楽	<p>学 歌唱や器楽に興味をもち、楽しく演奏に取り組むことができている。主体的に思いや意図をもって表現し、実現するための技能は十分ではないが、音楽作り、鑑賞では、自分の思いをワークシートや楽譜や文章等で表現することができてきている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・難易度の高い課題に取り組んだとき、諦めてしまう場面がみられる。 ・音楽表現を工夫することに対して難しさを感じている児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技能面では、音楽の基礎・基本がさらに定着するよう、発達段階に応じた指導の工夫をし、活動を取り入れていく。 ・自分の思いと友達の良さに気付けるよう、ペア学習やタブレット端末を使い共有する場面を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対応に伴い、表現活動に制限があったが、リコーダーをキーボードに変えて合奏をし、協働して一つの音楽を作り上げる喜びを味わわせることができた。 ・音楽づくりの活動でペア学習を行ったりタブレット端末を活用したりしたことで、思考力・判断力・表現力が向上した。 ・歌唱やリコーダーの学習について、児童の技能に合わせて、段階を踏み演奏技能を向上させるよう指導する。 	
図工	<p>学 作品完成まで、見通しをもって取り組む意識が高まってきている。鑑賞では、自他の作品のよさを積極的に見つけて伝えることができる。絵や立体、工作に表すことに関心をもち、自分の思いを大事にしながら取り組むことができる。</p>	<p>題材のテーマから想像したことを絵に表す活動に苦手意識を感じる児童がいる。想像することが難しい場合と、自分の考えを絵に表すときに描き方が分からない場合がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・導入時にテーマについて個人で考えた後にタブレットを活用して全体で考えを共有し、表したいことを見付けられるようにする。 ・絵に表す活動に主体的に取り組めるように、参考作品を用いて提示したり、児童の様子をプロジェクターで投影したりして、様々な方法に気付くことで活動できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えることが苦手な児童は、タブレット端末で検索し、そこで見つけたイラストに似た絵を描いてしまうことが多い。そこで、鑑賞を充実させ他者の話を聞き、考えを共有することで、自分なりに考えた絵を描けるような手立てにする。 ・児童が表現したいことに合わせて、自分に適した表現方法や材料、用具などを選ぶことができるようにする。用具については、児童の技能の習得につながるよう様々な使い方を教師による実演や動画での解説等を行いながら丁寧に紹介する。 	
特支	<p>学 個別学習に、集中して取り組めるようになってきた。計算や漢字、詩の音読など、毎日繰り返し行う学習に、意欲的に取り組む児童が増えてきた。一方で、集団で、話を聞いたり、スピーチをしたりする活動やコミュニケーションを必要とする学習が苦手な児童が多い。自信がなくて、消極的になってしまう児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの児童は、席に座って静かに話を聞くことができているが、座ってじっとしていることが苦手な児童もいる。長時間の話になると姿勢保持が課題である。 ・話の内容を振り返る際、選択肢を提示すると選ぶことができる児童は多いが、正しく聞き取ったり、質問に答えたりすることが課題である。また、自分の気持ちを言葉で伝えることや、場に合った発言をすることにも課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・聞くとき、話すときのルール、声のボリューム表などを示し、日常的に意識付ける。また、教員が話をする際、視覚で捉えられる資料を用いて、興味関心をもたせるようにする。 ・受容的な雰囲気をつくり情緒を安定させながら自己表現を促す。言葉で伝えられずに不応を起す児童には、相手の思いを受け止められるよう、必要に応じて教員が言いたいことを言語化する。場面に合った話し方はソーシャルスキルトレーニングを行い、どう伝えたらよいかを示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の会やグループ学習等で、発言する時は挙手をする事や他の人の話は姿勢をよくして聞くことなどを日常的に指導することで、半数以上の児童が発表時のルールを守る事ができるようになった。声の大きさについては、まだ十分に付いていないため、引き続き指導していく。 ・児童に落ち着かない行動や集中力が途切れた様子が見られた際には、教員や講師等で共通理解を図り、児童の気持ちを代弁したり選択肢を示したりして受容的な雰囲気をつくってきたことで、児童自身が、少しずつ自分の気持ちを言葉で表現することができるようになってきた。 	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。